

博士（人間科学）学位論文 概要書

中国茶文化と茶館

——中国浙江省杭州市の事例——

Chinese Tea Culture and Tea House

——The case of Hangzhou in Zhejiang, China——

2006年1月

早稲田大学大学院 人間科学研究科

宍戸 佳織

Shishido, Kaori

研究指導教員： 蔵持 不三也 教授

本論文は、中国浙江省杭州市がいかなる理由で、中国茶文化の中心地のひとつとなりえたかを、検証する。

序論では、欧米人の旅行記を中心に、欧米人から見た中国茶文化の実態についてふれ、本論文の構成について触れる。

第1章では、中国における茶の起原と分類、世界各地への伝播、中国における茶学史を整理する。茶は中国南部の雲南省が原産地であり、世界各国に様々な茶があるが、すべて植物学的には同一種のカメリア・シネンシス(*Camellia sinensis*)である。中国から世界各国へ伝播した経路は、福建経路と広東経路の二つに分かれ、各国の茶の名称によってその経路を推察することが出来る。中国茶は緑茶、黄茶、白茶、青茶(烏龍茶)、黒茶(プーアール茶)、紅茶と大きく6種類にわかれるが、これを六大分類という。中国における茶飲用の歴史は、紀元前 2860 年ほど前の伝説の神農氏までさかのぼり、元来が薬用であったという。文献上に「茶」の字が初出するのは、漢代の奴隷契約文である。

第2章では、本論文で中心に論ずる中国浙江省杭州市の現在の概況、その歴史上の位置についてのべる。2003年現在、杭州市の面積が1万6596km²、人口は642万である[杭州市統計局 2004: 20]、中国第1の経済都市上海に近い、生活水準の高い都市である。歴史的にみると、南宋の時代にその首都臨安が置かれていたことでも知られる。元代に杭州を訪れたマルコポーロは、「地上の楽園」と絶賛している。

第3章では、中国茶文化が市民にまで普及し、茶館が繁栄した中国茶文化の基本的なスタンスは決定したといえる、宋代の茶をめぐる時代背景、闘茶(茶の飲み比べ)が茶の生産量に及ぼした影響、闘茶が宋と文化的経済的に密接な関係を結んでいた契丹族の遼王朝に与えた影響などを、絵画や壁画などからのべる。

第4章では、現在の茶館の祖形である19世紀から20世紀中葉までの茶館の発達についてふれた後、1970年代末期に中国で起こった茶文化ブームと茶芸の意義について述べる。次に中国における茶館の二つの類型を、北京を例に取り上げて検証する。茶館の中には、例えば北京の老舍茶館のような劇場タイプの茶館と、五福茶芸館のような茶芸館タイプの2種類がみられ、それぞれ目的と客層が異なる。茶館タイプの場合、茶を楽しみながら相声(漫才)、京劇、雑技などを楽しむのが主体である。茶芸館タイプの場合は、客は小姐が目の前で茶芸によって茶をいれるのを見ながら、商談したりするのが中心である。

第5章においては、杭州市における茶館と茶文化の実態を論ずる。杭州市には、現在国立の中国茶葉博物館、中国茶葉研究所そして浙江大学農学部茶学系と、中国国内の有名な

茶関係の諸機関が集中しており、そして 600 近くの茶館が林立している。そして茶館で働く茶芸師、評茶師を養成するための培训班活動(国家試験を伴った講習会活動)が、非常にさかんである。本章では、杭州市内の茶関係の諸機関についてふれ、茶芸師培训班活動、評茶師培训班活動の実態について述べた後、杭州市内への観光客の増加と茶芸師培训班活動との関連性についてのべる。

終章では、中国浙江省杭州市がなぜ中国茶文化の中心地であるかを考察する。私は、宋代において皇帝とその周辺など限定された人々の間で飲まれていた茶を、ひろく一般の中国人へ、さらには外国人観光客へと普及させる食の平準化を加速化させる舞台として、以下の理由から杭州市が最適であったからと考察している。茶葉博物館内におかれた中国国際茶文化研究会、浙江省内の茶館などには観光業界で働いた人物も多く、杭州市の観光局や茶芸の関係者も茶文化は観光の一部分と考えているように、杭州市は観光と密接な関係があること、またその杭州は中国茶文化の基本形が完成した南宋時代の古都であり、中国緑茶の名品西湖竜井茶が生産され、清朝の乾隆帝、中華人民共和国の毛沢東など中国を代表する政治家達が西湖竜井茶を愛し杭州をたびたび訪問した都市であることである。これらの歴史的事実を国家的規模の初の茶の総合博物館である中国茶葉博物館を建設などによってひとつひとつに再認識させ、また同博物館内の茶芸師培训班も杭州の観光シンボルのひとつとしての中国茶文化を實際面になう人材を養成し、茶の都杭州という地位を確立させたのである。杭州市は、中国が中国茶文化という伝統文化のシンボルを内外に広めるための一つの文化都市であり、中国茶文化における杭州の茶館の意義とは、中国茶文化が中国の伝統を内外にしめすためのシンボルであることを、端的にしめすものである。